Arcserve[®] Replication/High Availability

PowerShell コマンド操作ガイド r16.5



組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への 情報提供のみを目的としたもので、Arcserve により随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserve の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製すること はできません。本書は Arcserve が知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは (i) 本書に関連する Arcserve ソフト ウェアの使用について、Arcserve とユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または (ii) ユー ザと Arcserve との間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用するこ とはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品(複数の場合あり)のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただし Arcserveのすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている 期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは Arcserve に本書の全部 または一部を複製したコピーを Arcserve に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、ARCSERVE は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、 他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因し て、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問い ません)が発生しても、ARCSERVE はお客様または第三者に対し責任を負いません。ARCSERVE がかかる損害の発生の 可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は Arcserve です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び(2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 Arcserve (USA), LLC and its affiliates and subsidiaries. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、 サービス名、商号およびロゴはそれぞれの所有者の商標またはサービスマークです。

Arcserve 製品リファレンス

このマニュアルが参照している <arcserve> 製品は以下のとおりです。

- Arcserve[®] Replication
- Arcserve[®] High Availability (HA)
- Arcserve[®] Assured Recovery[®]
- Arcserve[®] Content Distribution

Arcserve へのお問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソース を提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

https://www.arcserve.com/support

Arcserve サポートの利点

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有している情報ライブラリと同じものに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジベース(KB)ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連KB技術情報を簡単に検索し、実地試験済みのソリューションを見つけることができます。
- ライブチャットリンクを使用して、Arcserve サポートチームとすぐに リアルタイムで会話を始めることができます。ライブチャットでは、 製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得る ことができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティでは、質疑応答、ヒントの共有、ベストプラクティスに関する議論、他のユーザとの対話に参加できます。
- サポートチケットを開くことができます。オンラインでサポートチ ケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コー ルバックを受けられます。

また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアク セスできます。

製品ドキュメントに関するフィードバックの提供

Arcserve 製品ドキュメントに関してコメントまたは質問がある場合は、 こ ちらまでお問い合わせください。

マニュアルの変更点

本マニュアルでは、前回のリリース以降に、以下の点を更新しています。

 製品およびドキュメント自体の利便性と理解の向上に役立つことを目 的として、ユーザのフィードバック、拡張機能、修正、その他小規模 な変更を反映するために更新されました。

目次

第1章:はじめに

このマニュアルについて	11
関連マニュアル	11
Arcserve RHA PowerShell コマンドの説明	12
PowerShell の概念	13
PowerShell Cmdlet	13
オブジェクト パイプライン	14
Arcserve RHA PowerShell のインストール	14
Arcserve RHA PowerShell の実行	15
ヘルプの使用	18
コマンド出力のフォーマット	19

第2章: Arcserve RHA PowerShell コマンドの使用

接続コマンドおよび登録コマンド	21
Connect-XO - PowerShell のコントロール サービスへの接続	22
スクリプトを使用した PowerShell のコントロール サービスへの接続	23
Disconnect - XO - 実行中のコントロール サービスからの接続解除	24
Get-License - Arcserve RHA ライセンスの表示	25
Set-License - Arcserve RHA の登録	26
xo-import-credential	27
xo-convertto-securefile	27
xo-credential - 文字列の PSCredential オブジェクトへの変換	28
Add-Credential - 認証情報をホストに追加します	29
Set-HostUserCredential - ホストのユーザ認証情報プロパティを設定します	30
Set-ScenarioUserCredential - シナリオのユーザ認証情報プロパティを設定します	31
制御コマンド	31
Diff-Scenario - 相違点レポートの生成	32
Export-Scenario - 指定した場所へのシナリオのエクスポート	33
Expose-Snapshot - スナップショットの公開	34
Import-Scenario - マネージャへのシナリオのインポート	35
Mount-Snapshot - スナップショットのマウント	36
Prepare-Reboot - ホストのメンテナンスの準備	37
Recover-Scenario - 損失データのレプリカからマスタへの回復	38
Resume-IsAliveCheck - 実行中のシナリオの IsAlive チェックの再開	40

11

21

Resume-Scenario - 一時停止したレプリカのレプリケーションの再開	40
Run-Scenario - シナリオの開始	41
Run-Assessment - アセスメント モードでのシナリオの実行	42
Set-Bookmark - リワインドブックマークの設定	43
Stop-Scenario - シナリオの停止	44
Suspend-IsAliveCheck - 実行中のシナリオの IsAlive チェックの一時停止	44
Suspend-Scenario - レプリカの更新の一時停止	45
Switchover-Scenario - スイッチオーバーの実行	46
Sync-Scenario - 同期の開始	47
Test-Integrity - アシュアード リカバリの整合性テストの実行	48
Unmount-Snapshot - スナップショットのマウント解除	50
編集コマンド	50
Add-Appliance - フル システム シナリオ用のアプライアンスの指定	51
Add-Dir - マスタおよびレプリカのホストへのルート ディレクトリの追加	53
Add-Group - シナリオ グループの作成	54
Add-Master - シナリオへのマスタ ホストの追加	55
Add-Replica - シナリオへのレプリカ ホストの追加	56
Add-Replicas - シナリオへの複数のレプリカ ホストの追加	58
Add-Scenario - 新規シナリオの作成	60
Create-D2DScenario - D2D シナリオの作成	62
Create-HBBUScenario - Arcserve Central Applications 統合シナリオの作成	63
Get-D2DBackupDestination - D2D バックアップ先の取得	64
Get-HBBUVM - Arcserve Central Applications サーバからの VM の取得	64
Remove-Dir - マスタおよびレプリカからのルート ディレクトリの削除	65
Remove-Group - シナリオ グループの削除	66
Remove-Replica - シナリオからのレプリカ ホストの削除	67
Remove-Scenario - シナリオの削除	68
Rename-Group - シナリオ グループの名前の変更	69
Rename-Scenario - シナリオ名の変更	70
実行中にシナリオを変更するコマンド	71
モニタリング コマンド	78
Get-Dirs - シナリオのルート ディレクトリの一覧表示	79
Get-Events - シナリオのイベントのリスト表示	80
Get-Group - 所定の名前を持つグループの一覧表示	81
Get-Hosts - シナリオのすべてのホストの一覧表示	82
Get-NetworkAdapters - 指定されたホストのネットワーク アダプタの取得	83
Get-Scenario - 所定の名前を持つシナリオのリスト表示	84
Get-Snapshot - レプリカ ホストの VSS スナップショットを表示	85
Get-State - 特定のホストに定義されたすべてのシナリオの一覧を表示	86
Get-Stats - シナリオの統計情報を表示	87

ユーザ管理コマンド	88
Clean-VMResource – 仮想プラットフォーム上の VM リソースの消去	88
Edit-NetworkMapping – マスタおよびレプリカへのネットワーク アダプタのマップ	89
Get-SuperUserGroup - スーパー ユーザ グループ名の表示	90
Set-SuperUserGroup - スーパー ユーザ グループの変更	91
Get-Users - スーパー ユーザ グループのすべてのユーザの一覧表示	91
Get-ScenarioUsers - シナリオに対する権限を持つすべてのユーザの一覧表示	92
Set-ScenarioUser - シナリオに対する権限の、ユーザへの割り当て	93
Remove-ScenarioUser - シナリオに対するユーザの権限のキャンセル	94

第1章:はじめに

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

<u>このマニュアルについて</u>(P.11) <u>関連マニュアル</u>(P.11) <u>Arcserve RHA PowerShell コマンドの説明</u>(P.12) <u>PowerShell の概念</u>(P.13) <u>Arcserve RHA PowerShell のインストール</u>(P.14) <u>Arcserve RHA PowerShell の実行</u>(P.15) <u>ヘルプの使用</u>(P.18) コマンド出力のフォーマット(P.19)

このマニュアルについて

このマニュアルには Arcserve RHA PowerShell コマンドの実行および活用 に必要なあらゆる情報が含まれています。このマニュアルでは、Windows PowerShell の概要、Arcserve RHA パワーシェルの各コマンドについて説明 し、これらのコマンドを使用して、DR および HA プロセスを制御、編集、 モニタする手順と例を紹介します。

関連マニュアル

このガイドは、以下のガイドと合わせてお読みください。

- Arcserve RHA インストール ガイド
- Arcserve RHA 管理者ガイド

Windows PowerShell の使い方の詳細については、PowerShell インストール パッケージに付属するマニュアル パックを参照するか、<u>Microsoft ダウン</u> <u>ロードセンター</u>から、このマニュアル パックをダウンロードしてくださ い。

Arcserve RHA PowerShell コマンドの説明

Arcserve RHA PowerShell は、Arcserve RHA マネージャのグラフィック ユー ザインターフェース (GUI) を使用したレプリケーションプロセスを管理 するための代替手段または補足手段として、ユーザに提供されています。 パワーシェルは、以前のバージョンで提供されていた WS CLI の機能を拡 張し、より使いやすくしたものです。また、DR と HA の両方の処理がサポー トされています。

Windows PowerShell™は、システム管理者専用に設計された新しい Windows コマンドラインシェルおよびスクリプト環境です。 このシェル には単独または組み合わせて使用できる対話型プロンプトおよびスクリ プト環境が含まれています。 テキストを受け取って返す通常のシェルと は異なり、Windows PowerShell は.NET 共通言語ランタイム(CLR)およ び.NET フレームワーク上に構築されていて、.NET オブジェクトを受け 取って返します。

Windows PowerShell[™] には、一貫性のあるインターフェースを使用した、 包括的な組み込みコマンドセットが用意されています。Arcserve RHA PowerShell は標準の Windows PowerShell[™] をベースに、スナップインと呼 ばれる多数のシナリオ関連コマンドが追加されています。このガイドで は、レプリケーションシナリオの設定、レプリケーションとスイッチオー バーの処理の制御およびモニタを可能にするこれらのスナップインにつ いて説明しています。Arcserve RHA PowerShell コマンドによって管理され るすべてのシナリオは、マネージャによって管理されるシナリオと表示や 操作が同じで、自動的に保存されるデフォルトの場所も同じ (INSTALL DIR/ws scenarios)です。

PowerShell の概念

PowerShell Cmdlet

Windows PowerShell では、cmdlet(「command-let」)の概念を導入してい ます。 cmdlet は、オブジェクトの操作を目的とする、シェルに構築され た単純で単機能のコマンドラインツールです。 cmdlet は名前形式で識別 することができます。たとえば、Get-Help、Get-State、Run-Scenario など、 動詞と名詞がダッシュ(-)で区切られています。 動詞は Windows PowerShell の特定のアクションを示し、名詞は特定のオブジェクトのタイ プを示します。

Windows PowerShell では、ほとんどの cmdlet の機能は非常に単純で、他の cmdlet と組み合わせて使用されるように設計されています。 たとえば、 それぞれ、「get」 cmdlet はデータの取得、「set」 cmdlet はデータの構築 または変更、「format」 cmdlet はデータのフォーマット、「out」 cmdlet は 特定の方向への出力のみに使用されます。

PowerShell cmdlet には共通のパラメータがありますが、本書では扱いません。この共通パラメータの詳細を表示するには、以下のコマンドを入力します。

get-help about_commonparameters

PowerShell cmdlet は、必須およびオプションのパラメータを持つことができます。 必須パラメータがない場合は、入力を促すプロンプトが表示されます。オプションのパラメータが不足している場合は、PowerShell はデフォルトの値を使用します。

オブジェクト パイプライン

Windows PowerShell では、テキストではなく、オブジェクトに基づいた新 しい対話型モデルを提供しています。オブジェクトを使用する大きな利 点の1つは、コマンドのパイプラインが容易になることです。つまり、あ るコマンドの出力を別のコマンドに入力として渡すことができることで す。

オブジェクトを受け取るコマンドは、変換や操作をせずに、直接プロパ ティやメソッドを処理することができます。ユーザは、出力にあるデー タの位置を計算するのではなく、オブジェクトのプロパティおよびメソッ ドを名前で参照することができます。)

以下の例では、Get-Scenario コマンドの結果は Get-Hosts コマンドに渡され ます。パイプライン演算子(|)が左側のコマンドの結果を右側のコマン ドに送り、出力は Format-Table コマンドに送られます。

PS> Get-Scenario "File Server*" | Get-Hosts | FT -AUTO

Scena	ario	Name	Role	Parent	State	IP	Port
File	Server 1	192.168.1.152	Master		Running	192.168.1.152	25000
File	Server 1	192.168.1.153	Replica	192.168.1.152	Running	192.168.1.153	25000
File	Server	192.168.1.152	Master		Stopped	192.168.1.152	25000
File	Server	192.168.1.153	Replica	192.168.1.152	Stopped	192.168.1.153	25000

Arcserve RHA PowerShell のインストール

Arcserve RHA PowerShell を使用するには、Windows PowerShell と Arcserve RHA スナップインをインストールする必要があります。

Windows PowerShell および Arcserve RHA スナップインの要件およびイン ストールの詳細については、「Arcserve RHA インストール ガイド」を参照 してください。

重要: Arcserve RHA PowerShell とこの PowerShell が接続されている Arcserve RHA コントロール サービスは同じバージョンであることが必要 です。

Arcserve RHA PowerShell の実行

Windows PowerShell および Arcserve RHA スナップインをインストールした後、2 つの場所から Arcserve RHA PowerShell を実行できます。

- Arcserve RHA PowerShell ショートカット このオプションを使用する と、すぐに Arcserve RHA PowerShell スナップインの操作を開始できま す。
- Windows PowerShell ショートカット このオプションを使用する場合、 Arcserve RHA PowerShell スナップインを手動で Windows PowerShell に 追加する必要があります(以下を参照してください)。

重要:マスタ、レプリカ、およびコントロールサービスのホストのそれぞれに異なるパスワードを設定している場合、PowerShellのコマンドの実行中にシステムエラーが発生し、操作を実行または完了できない場合があります。この問題を回避するために、すべてのホストで同じ管理者パスワードを使用してください。

Arcserve RHA PowerShell を Arcserve RHA PowerShell ショートカットから実行するには、以下の手順に従います。

1. [スタート] - [プログラム] - [arcserve RHA] - [PowerShell] を選択 して、Arcserve RHA PowerShell を開きます。

Arcserve RHA PowerShell を開くと、次のウィンドウが表示され、すべての Arcserve RHA PowerShell スナップインの一覧が表示されます。

CA LA AHUSEIVE	RHA Powershell	
commandType	Name	Definition
lias	xecon	Connect-xo
lias	xodiscon	Disconnect-xo
lias	xogstats	Get-stats
lias	xogstate	Get-state
lias	xogg	Get-group
lias	xogs	Get-scenario
lias	xogh	Get-Hosts
lias	xogq	Get-Dirs
lias	xoge	Get-events
lias	xogl	Get-license
lias	xosl	Set-license
lias	xorun	Run-scenario
lias	xoassess	Run-assessment
lias	xostop	Stop-scenario
lias	xodiff	Diff-scenario
lias	xosync	Sync-scenario
lias	xosus	Suspend-scenario
lias	xores	Resume-scenario
lias	xorec	Recover-scenario
lias	xotest	Test-Integrity
lias	xoswitch	Switchover-scenario
lias	xobmark	Set-Bookmark
lias	xoreboot	Prepare-Reboot
lias	xoag	Hdd-group
lias	xorg	Kemove-group
lias	xong	Kename-group
lias	xoas	Had-scenario
1145	xons	Rename-Scenario
lias	XOPS	Remove-scenario
lias	xuam	Add-nonline
1105	Xoar	Add-membione
lias	Xuars	nuu-repiicas
lias	xuFF	Odd-din
lias	would	nuu uir
liac	XOTU	Expont-scepanio
liae	Yo imp	Import scenario
liac	Xoucepan	Get-Spanshot
lias	xogsnap	Expass-Spanshot
lias	vomenan	Mount-Spanshot
liae	vouenan	linmount-Snanshot
lias	xoasha	Get-SuperliserGroup
lias	xuaanu	Set-SuperliserGroup
lias	Xngusers	Get-lisers
lias	Xudansees	Get-Scenariollsers
lias	XOSSUSEP	Set-Scenariollser
lias	xorsuser	Remove-ScenarioUser
\$>_		

ここで、Arcserve RHA 操作を管理するコントロール サービスに接続す る必要があります。これを実行するには、<u>Connect-XO</u> (P. 22) コマンド を使用します。 Arcserve RHA PowerShell を Windows PowerShell ショートカットから実行するには、以下の手順に従います。

1. [スタート] - [プログラム] - [Windows PowerShell 1.0] - [Windows PowerShell] を選択して、Windows PowerShell を開きます。

Windows PowerShell ウィンドウが表示されます。

2. 次のコマンドを入力して、作業ディレクトリを Arcserve RHA PowerShell スナップインの INSTALLDIR に変更します。

CD 'INSTALLDIR¥Powershell Snapin'

ディレクトリが変わります。

3. 次のコマンドを入力して、Arcserve RHA PowerShell スナップインをイン ストールします。

.¥xo.psl

Arcserve RHA PowerShell スナップインがインストールされ、これらのス ナップインを使用して、Arcserve RHA 操作を管理するコントロール サービスへの接続を開始できます。

ヘルプの使用

PowerShell では、複数の方法でヘルプおよび追加の情報を得ることができます。

特定のコマンドのヘルプ

ヘルプパラメータ - 任意のコマンドに -? パラメータを指定すると、そのコマンドは実行されません。代わりに、Windows PowerShell はそのコマンドのヘルプを表示します。構文は以下のとおりです。

<コマンド名> -?

コマンドの型と構文を表示するには、次のコマンドを入力します。

get-command <コマンド名>

 コマンドごとに詳細なヘルプファイルがあります。ヘルプファイル を参照するには、以下のコマンドを入力します。

get-help <コマンド名> -detailed

コマンドヘルプファイルの詳細ビューにはコマンドの説明および構 文、パラメータの説明、およびコマンドの使用例が含まれています。

コマンドのパラメータのヘルプを表示するには、パラメータのプロンプトの後に「!?」を入力します。

<パラメータ名>: !?

使用できるコマンドの一覧

使用できる Windows PowerShell コマンドの一覧を表示するには、以下のコマンドを入力します。

get-command

使用できる Arcserve RHA PowerShell スナップイン コマンドの一覧を表示するには、以下のコマンドを入力します。

get-command | where {\$_.DLL -match "X0"} | format-table

 XO コマンドに定義されているすべてのエイリアスの一覧を表示する には、以下のコマンドを入力します。

alias xo*

Arcserve RHA PowerShell のコマンドの検証

 Arcserve RHA PowerShell スナップインのインストールを確認するには、 以下のコマンドを入力して、Arcserve RHA PowerShell スナップインを探 します。

get-pssnapin

コマンド出力のフォーマット

Windows PowerShell には、以下のような、出力表示を変更できるようにするコマンドがあります。

- Format-List
- Format-Custom
- Format-Table
- Format-Wide

いずれかのコマンド出力のフォーマットを変更するには、パイプライン演算子(|)を使用して、コマンドの出力を Format コマンドに送信します。

たとえば、次のコマンドでは Get-Scenario コマンドの出力を Format-Table コマンドに送信しています。 その結果、データは表としてフォーマット されています。

PS>get-scenario |Format-table

ID	Group	Name	Туре	Master	State	Sync	AR
1123633468	Scenarios	File Server 1	FileServer	192.168.1.152	Running	File	False
1123633497	Scenarios	Exchange Server	Exchange	192.168.1.152	Running	Block	True
1123633852	Scenarios	File Server 3	FileServer		Unknown	File	False
3848963840	Scenarios	File Server	FileServer	192.168.1.152	Stopped	File	False
3848982942	Scenarios	File System 1	FileServer	QA99-W2K3-EX8	Running	File	False
詳細につい 参照して	いては、『 ください。	以下のコマンド ,	を実行し	て、Format コ	マンド	のヘル	~プを
get-help fo	ormat-list						
get-help fo	ormat-table	2					
get-help format-wide							

get-help format-custom

第2章: Arcserve RHA PowerShell コマンドの 使用

この章では、Arcserve RHA PowerShell コマンドを使用して、レプリケーショ ンおよび HA プロセスを制御、編集、モニタする方法の詳細を説明します。 コマンドはアルファベット順に表示され、接続、登録、制御および編集の 4 つのグループに分かれています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

<u>接続コマンドおよび登録コマンド</u>(P.21) <u>制御コマンド</u>(P.31) <u>編集コマンド</u>(P.50) <u>モニタリング コマンド</u>(P.78) <u>ユーザ管理コマンド</u>(P.88)

接続コマンドおよび登録コマンド

このセクションでは、コントロールサービスに接続する方法、コントロールサービスから切断する方法、および Arcserve RHA 登録のライセンスキーを入力する方法を説明しています。

Connect-XO - PowerShell のコントロール サービスへの接続

PowerShell を使用して Arcserve RHA シナリオを操作するには、まず Arcserve RHA 操作の制御点の役割を果たすコントロール サービスに接続 する必要があります。Connect-XO コマンドを使用して、PowerShell を特定 のコントロール サービスに接続することができます。

注: Arcserve RHA PowerShell の操作が終了したら、必ず、<u>Disconnect-XO</u>(P. 24) コマンドを使用して、コントロール サービスから接続解除してくださ い。PowerShell ウィンドウを閉じると、PowerShell がコントロール サービ スから接続解除されます。

構文

Connect-X0 [-Host] <文字列> [-Credentials] <PSCredentials> [[-Protocol] [<文字列>]] [[-Port] [<文字列>]]

パラメータ

Host

コントロール サービスが実行されているマシンの IP アドレスまたはホスト名。

Credentials¥PSCredentials

コントロールサービスのドメイン¥ユーザ名。これらの認証情報 は、コントロールサービスの管理者権限を持つユーザに属する必 要があります。認証情報を入力したら、[Windows PowerShell 資 格情報の要求]ダイアログボックスが表示され、パスワードを入 力するように求められます。

注: [PSCredentials] ダイアログボックスに認証情報を手動で入力 しなくても済むようにするには、「スクリプトを使用した PowerShell のコントロールサービスへの接続」を参照してくださ い。

Protocol

コントロール サービスに接続するために使用されるプロトコル。 http または https のいずれかを入力します。

Port (オプション)

コントロール サービスに接続するために使用される TCP/IP ポート。 http の場合、デフォルト値は 8088、https の場合、デフォルト値は 443 です。

例: コントロール サービスへの接続

connect-xo 192.168.1.151 qa88-w3k3¥administrator https

結果

[Windows PowerShell 資格情報の要求] ダイアログ ボックスが表示され、 パスワードを入力するように求められます。入力操作の後、以下のメッ セージが表示されます。

接続中... 192.168.1.151 接続しました。

スクリプトを使用した PowerShell のコントロール サービスへの接続

パスワードを暗号化し、それをオブジェクトとして実行することによって、 [PSCredentials] ダイアログボックスに認証情報を手動で入力する必要が なくなります。

パスワードを暗号化して、オブジェクトとして実行するには、以下の手順に従います。

以下コマンドを入力し、必要な箇所にパスワードを使用して、一度実 行します。

read-host -assecurestring | convert from-securestring | out-file C:¥ securestring.txt </* X $D\!-\!k\!>$

\$pass = cat C:¥securestring.txt | convertto-securestring

\$mycred = new-object -typename System.Management.Automation.PSCredential
-argumentlist <domain¥user_name>, \$pass

Connect -X0 [-Host] <文字列> \$mycred [[-Protocol][<文字列>]] [[-Port] [<文字列>]]

結果は標準の接続を使用した場合と同じです。

接続中...

<IP Address> 接続しました。

詳細については、PowerShell ドキュメントを参照するか、インターネット を検索してください。

Disconnect - XO - 実行中のコントロール サービスからの接続解除

Arcserve RHA PowerShell の操作を終了したら、実行中のコントロールサービスとの接続を解除する必要があります。 Disconnect-XO コマンドを使用 すれば、PowerShell を実行中のコントロール サービスから接続解除できます。

注: PowerShell ウィンドウを閉じると、PowerShell がコントロール サービ スから切断されます。

構文

Disconnect-X0

注: このコマンドにはパラメータがありません。実行中のコントロール サービスから自動的に接続解除されます。

例: コントロール サービスからの接続解除

disconnect-xo

結果:

192.168.1.151 が接続解除されました

Get-License - Arcserve RHA ライセンスの表示

Get-License コマンドを使用して、Arcserve RHA ライセンスの詳細を表示できます。

構文

get-license

例: Arcserve RHA ライセンスの詳細を表示

get-license

結果:

キー: TVC2LF24FTU7G3WJ2QAFMCLGXA5KLPCCYIXTJTWX2M0ZFU5GL7EJ30YZQND7V3G123456 会社名: ライセンスの有効期限: 11 2009

メンテナンスの有効期限: 11 2009

アシュアード リカバリ ノードの数: 240

CDP リポジトリ ノードの数: 240

製品リスト:

- アプリケーション サーバ、Windows Cluster Edition、30 インスタンス HA
- ファイル サーバ、Windows Enterprise Edition、130 インスタンス HA
- アプリケーション サーバ、Windows Enterprise Edition、130 インスタンス DR
- ファイル サーバ、Windows Enterprise Edition、30 インスタンス DR
- アプリケーション サーバ、仮想マシン、100 インスタンス DR
- アプリケーション サーバ、仮想マシン、100 インスタンス HA

Set-License - Arcserve RHA の登録

Set-License コマンドで、ライセンスキーを使用して、Arcserve RHA を登録 できます。このコマンドを使用する前に、有効な登録キーを持つ必要が あります。

構文

set-license

パラメータ

キー

有効なライセンス キー

例: ライセンス キーを使用した Arcserve RHA の登録

set-license TVC2LF24FTU7G3WJ2QAFMCLGXA5KLPCCYIXTJTWX2M0ZFU5GL7EJ30YZQND7V3G123456

結果:

キーは正常に登録されました

xo-import-credential

このコマンドは、指定された XML ファイル内のすべての認証情報レコードを読み取り、Add-Crendential コマンドを使用して、接続されたコントロールサービスに追加します。

構文

xo-import-credential

パラメータ

XMLファイル名を指定します。

入力

なし。xo-import-credential にリンクされるオブジェクトはありません。

xo-convertto-securefile

このコマンドは、CSV ファイルのプレーンテキストを安全な XML ファイル に変換します。

構文

xo-convertto-securefile

パラメータ

ソースファイル名およびデスティネーションが指定されます。

ソースは以下の形式の CSV ファイルである必要があります。

hostname,	username,	password
host1,	user1,	pwd1
host2,	user2,	pwd2

入力

なし。リンクされるオブジェクトはありません。

xo-credential - 文字列の PSCredential オブジェクトへの変換

xo-credential コマンドを使用すると、ユーザ名およびパスワードの文字列 を安全な認証オブジェクトに変換でき、PSCredential オブジェクトをコマ ンド引数に取る他のコマンド内で使用することができます。

構文

xo-credential <ユーザ名> **<**パスワード>

例

xo-credential johnsmith mypword2

Add-Credential - 認証情報をホストに追加します

この Add-Credential コマンドによって、認証情報をホストに追加できます。

構文

Add-Credential [-Credentials] <PSCredential> [-Host] <String> [[-Port] <UInt32>]]

パラメータ

Credentials

ホストの PowerShell 認証情報オブジェクト。xo-credential cmdlet を 使用して、この認証情報オブジェクトを作成できます。

Host

認証情報の適用先のホストのホスト名または IP アドレス。

Port

ホストのポート番号。

デフォルト: 25000。

例:

\$c = xo-credential "administrator" "Password";

Add-Credential \$c "9.182.102.229" 25000

Set-HostUserCredential - ホストのユーザ認証情報プロパティを設定します

Set-HostUserCredential コマンドを使用して、ホストのユーザ認証情報プロ パティを設定できます。

構文

Set-HostUserCredential [-Name] <String> [-Host] <String> [-Credentials]
<PSCredential>

パラメータ

Name

シナリオ名。

Host

認証情報を設定するホストのホスト名または IP アドレス。

Credentials

特定のホストの PowerShell 認証情報オブジェクト。 xo-credential cmdlet を使用して、この認証情報オブジェクトを設定できます。

例:

\$c = xo-credential "administrator" "Password";

Set-HostUserCredential -name "scenario 1" -host 9.182.102.229 -credential \$c 出力:

プロパティは正常に更新されました。

Set-ScenarioUserCredential - シナリオのユーザ認証情報プロパティを設定します

Set-ScenarioUserCredential コマンドを使用して、シナリオのユーザ認証情報プロパティを設定できます。

構文

Set-ScenarioUserCredential [-Name] <String> [-Credentials] <PSCredential>

パラメータ

Name

シナリオ名。

Credentials

ホストの PowerShell 認証情報オブジェクト。 xo-credential cmdlet を使用して、この認証情報オブジェクトを作成できます。

例:

\$c = xo-credential "administrator" "Password";

Set-ScenarioUserCredential -name "scenario 1" -credential \$c

出力:

プロパティは正常に更新されました

制御コマンド

このセクションでは、レプリケーションおよび HA プロセスを制御できる ようにする Arcserve RHA PowerShell コマンドについて説明します。

Diff-Scenario - 相違点レポートの生成

Diff-Scenario コマンドを使用して、所定のシナリオの相違点レポートを生成できます。

重要:マスタでデータの更新中に相違点レポートを開始することはお勧めしません。レプリカに適用されていないすべての更新は相違点として表示されるからです。

構文

Diff-Scenario [-Name] <文字列> [-Mode] <文字列> [-Ignore] <ブール値>

パラメータ

Name

レポートを生成するシナリオの名前。Get-Scenario (P. 84) コマンド を使用して、複数のシナリオ名を入力できます。

Mode

同期モード。以下のいずれかを入力します。 B=バイナリ F=ファイル

Ignore

データの比較時に名前とサイズが同じファイルを無視します。以下のいずれかを入力します。

1=はい

0=いいえ

注:相違点レポートを生成後に表示するには、概要ページから[レポート センター]を開いて、必要なレポートを選択します。

例:相違点レポートの生成

diff-scenario "File Server 1" F 1

結果:

```
以下のシナリオの相違点レポートを実行中です: File Server 1 ...
完了しました。
```

Export-Scenario - 指定した場所へのシナリオのエクスポート

Export-Scenario コマンドを使用して、シナリオを他の場所にエクスポート して再利用できます。シナリオは XMC ファイルとしてエクスポートされ、 エクスポート先の場所を指定できます。

構文

Export-Scenario [-Name] <文字列> [[-File] [<文字列>]]

パラメータ

Name

シナリオ名。

File (オプション)

エクスポートしたファイルの完全パス。パスを指定しない場合、 ファイルは現在のディレクトリにエクスポートされ、シナリオ名 に.xmcという拡張子が付きます。

例:指定した場所へのシナリオのエクスポート

export-scenario "File Server 1" C:¥Scenarios¥Scenario_exp_file_1

結果:

シナリオ File Server 1 が、C:¥Scenario_exp_file_1 に正常にエクスポートされま した

Expose-Snapshot - スナップショットの公開

Expose-Snapshot コマンドを使用して、スナップショットを公開できます。 スナップショットを未使用のフォルダにマウントして、ローカルの読み取 り専用フォルダとして公開したり、未使用のドライブ文字にマウントして、 ローカルの読み取り専用ボリュームとして公開したりすることができま す。

注:

- 公開されたスナップショットは、その後起動されても公開されたまま 残ります。公開されたスナップショットのマウント解除を行えば、そ れ自体を削除することなく、リリースすることができます。
- 公開アクションとマウントアクションは、スナップショットを特定の パスにマウントするという同じ結果を生成します。この2つのアク ションの違いは、スナップショットを最初にマウントするときには直 接マウントアクションを使用できないため、公開アクションを使用す る必要があることです。公開アクションでは、スナップショットを公 開してマウントします。これにより、マウント解除アクションとマウ ントアクションを使用できるようになります。

構文

Expose-Snapshot [-Name] <文字列> [-Index] <Int32> [-Path] <文字列> [-Port] <文字列>

パラメータ

Name

スナップショットを公開するホストの名前です。

Index

<u>Get-Snapshot コマンド</u>(P. 85)によって返されるスナップショット のインデックス番号。

パス

スナップショットの公開先のパス。このパスは、ドライブ文字ま たはフォルダの完全パスのいずれかで指定できます。

Port (オプション)

特定のホストへの接続に使用されるポート。 デフォルト ポートは 25000 です。

例:スナップショットをローカルの読み取り専用ボリュームとして公開

Expose-Snapshot 192.168.1.153 0 E: 25000

結果:

スナップショット {97127d0b-f1c9-4db5-943d-96c39b712fe6} が E: としてマウントされました

Import-Scenario - マネージャへのシナリオのインポート

Import-Scenario コマンドを使用して、シナリオを XMC ファイルの形式で、 指定した場所からインポートできます。 シナリオをあるコントロール サービスから別のコントロール サービスへ移動する場合、またはシステ ムが保持しているシナリオよりも古いシナリオを使用する場合に、このオ プションを使用します。

構文

Import-Scenario [-File] <文字列>

パラメータ

File

インポートしたシナリオファイルの完全パス。

注:

- 同名のシナリオがすでに存在している場合、インポートされたシナリ オの名前が変更されます。
- インポートされたシナリオはすべてデフォルトの Scenarios グループ に保存されます。

例:指定した場所からマネージャへのシナリオのインポート

import-scenario c:\u00e4scenarios

結果:

シナリオ File Server 2 は、c:¥scenarios から正常にインポートされました

Mount-Snapshot - スナップショットのマウント

Mount-Snapshot コマンドを使用して、公開したスナップショットをマウ ントできます。スナップショットをローカルの読み取り専用フォルダと して、未使用のフォルダにマウントしたり、ローカルの読み取り専用ボ リュームとして未使用のドライブ文字にマウントしたりすることができ ます。

構文

Mount-Snapshot [-Name] <文字列> [[-Index] [<Int32>]] [[-Path] [<文字列>]] [[-Port] [< 文字列>]]

パラメータ

Name

スナップショットをマウントするホストの名前です。

Index

```
<u>Get-Snapshot コマンド</u>(P. 85)によって返されるスナップショット
のインデックス番号。
```

パス

スナップショットの公開先のパス。このパスは、ドライブ文字ま たはフォルダの完全パスのいずれかで指定できます。

Port (オプション)

特定のホストへの接続に使用されるポート。 デフォルトポートは **25000** です。

例:スナップショットをローカルの読み取り専用ボリュームとしてマウント

mount-snapshot 192.168.1.153 0 F:

結果:

スナップショット {745d6ce9-d880-40bf-a0cb-d4f0114bb0f8} は F: としてマウントされています。
Prepare-Reboot - ホストのメンテナンスの準備

Prepare-Reboot コマンドを使用すると、ホストの再起動や Microsoft クラ スタノード間のグループの移動などのメンテナンス手順を実行すること ができ、プロセス完了後の再同期を実行する必要はありません。

メンテナンス用に準備されるホストは実行中のシナリオに含まれている 必要があります。1回に1つのホストで準備が行われますが、このホス トを複数のシナリオに加えることができます。これらのシナリオでは、 このホストはマスタとレプリカの両方として機能することができます。 実行中でないシナリオにホストが含まれている場合、このシナリオに関連 した準備は実行されません。

ホストの再起動の準備が完了したことを通知するメッセージを受け取る と、ホストを再起動するか、またはクラスタノード間でグループを切り 替えることができます。メンテナンス手順が完了すると、レプリケーショ ンプロセスは再同期を実行することなく自動的に再開します。

注: ホストをメンテナンス用に準備した後、再起動せずにシナリオの実行 を継続することにした場合、シナリオを停止して再実行する必要がありま す。

構文

Prepare-Reboot [-Name] <文字列>

パラメータ

Name

ホスト名。

例:再起動のためにレプリカホストを準備

Prepare-Reboot QA95-W2K3-EX2

結果:

ホスト QA95-W2K3-EX2 を再起動するための準備をしています

Recover-Scenario - 損失データのレプリカからマスタへの回復

Recover-Scenario コマンドを使用して、マスタで失われたデータをシナリ オに参加するレプリカホストから転送することによって、そのデータを 回復することができます。これは、レプリカからマスタへという逆方向 の同期プロセスを起動することによって実行されます。Recover-Scenario コマンドを起動するときに、データを回復する元になるレプリカホスト を定義し、リカバリプロセス中にマスタ上に存在するがレプリカ上には 存在しないデータを削除するかどうかを定義する必要があります。

重要: リカバリを開始するには、レプリケーションを停止する必要があり ます。

リカバリプロセスが完了したことを確認するには、<u>Get-Events</u> (P. 80) コマンドを使用します。「リカバリプロセスが終了した」ことを通知するメッセージを受け取ったら、<u>Run-Scenario</u> (P. 41) コマンドを使用して、マスタからレプリカへのレプリケーションプロセスを再起動できます。

構文

Recover-Scenario [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-Mode] <文字列> [-Ignore] <ブール 値> [-RemoveMasterFiles] <ブール値> [-RecoveryMode] <文字列> [-RebootAfterRecovery] < ブール値>

パラメータ

Name

シナリオ名。

Host

データのリカバリ元となるレプリカホスト。

Mode

同期モード。以下のいずれかを入力します。 B=バイナリ F=ファイル

Ignore

データの比較時に名前とサイズが同じファイルを無視します。以下のいずれかを入力します。

1=はい

0=いいえ

RemoveMasterFiles

リカバリプロセス中にマスタにのみ存在するファイルを削除する かどうかを決定します。以下のいずれかを入力します。

- 1=はい、マスタのみに存在するファイルを削除します。
- **0**=いいえ、マスタのみに存在するファイルを保持します。

RecoveryMode

リカバリするデータの種類。以下のいずれかを入力します。

A=アプリケーションデータ

S=システム状態データ([**システム状態の保護**]オプションが有効の場合のみ)

- B=両方の種類のデータ
- デフォルト値はAです。

RebootAfterRecovery

リカバリプロセスの完了後にマスタホストを再起動するかどう か。以下のいずれかを入力します。

1=はい、マスタを再起動します。

2=いいえ、マスタを再起動しません。

例:損失データの回復

Recover-Scenario "File Server 1" 192.168.1.153 F 1 0 A 2

結果:

アプリケーション データの回復プロセスが開始されました

Resume-IsAliveCheck - 実行中のシナリオの IsAlive チェックの再開

Resume-IsAliveCheck コマンドにより、指定された実行中のHAシナリオの IsAlive チェックを手動で再開できます。

構文

Resume-IsAliveCheck [-ScenarioName] <文字列>

パラメータ

ScenarioName

ターゲット シナリオ名。

例: SQLscenarioの IsAlive チェックの再開

Resume-IsAliveCheck SQLscenario

結果:

SQLscenario の定期的な IsAlive チェックを再開します。

Resume-Scenario - 一時停止したレプリカのレプリケーションの再開

Resume-Scenario コマンドを使用して、一時停止したレプリカホスト上の レプリケーションプロセスを再開できます。レプリケーションが再開さ れると、累積された変更が転送されて、レプリカに適用されるため、デー タの完全な再同期は不要です。

構文

Resume-Scenario [-Name] <文字列> [-Host] <文字列>

パラメータ

Name

シナリオ名。

Host

再開する一時停止したレプリカの名前。

例:一時停止したレプリカ上でのレプリケーション プロセスの再開

resume-scenario "File Server 1" 192.168.1.153

結果:

シナリオ File Server 1 を以下で再開しています: 192.168.1.153

Run-Scenario - シナリオの開始

Run-Scenario コマンドを使用して、1つまたは複数のシナリオを開始できます。

構文

Run-Scenario [-Name] <文字列> [-Mode] <文字列> [-Ignore] <ブール値>

パラメータ

Name

シナリオ名。Get-Scenario (P. 84) コマンドを使用して、複数のシナリオ名を入力できます。

Mode

同期モード。以下のいずれかを入力します。 B=バイナリ F=ファイル

Ignore

データの比較時に名前とサイズが同じファイルを無視します。以下のいずれかを入力します。

1=はい

0=いいえ

注:

- 操作が正常に完了したかどうかをチェックするには、<u>Get-Scenario</u>(P. 84) コマンドおよび <u>Get-Events</u>(P. 80) コマンドを使用します。
- 複数のシナリオを一度に実行する場合は、<u>Get-Scenario</u> (P. 84) コマン ドを使用します。

Get-Scenario |Run-Scenario

例:シナリオの開始

run-scenario "File Server 1" F 1

結果:

シナリオ File Server 1 を開始しています...

Run-Assessment - アセスメント モードでのシナリオの実行

Run-Assessment コマンドを使用して、実際にデータをレプリケートしなく ても、レプリケーションに必要な正確な帯域幅使用率と圧縮率ベンチマー クを評価できます。 このコマンドを実行すると、レプリケーションは行 われませんが、統計情報が収集されます。 レポートは、アセスメントプ ロセスが停止すると生成されます。

重要: 評価期間が過ぎたら、必ず <u>Stop-Scenario コマンド</u> (P. 44)を使用して、 アセスメントモードで実行されているシナリオを停止してください。

注: アセスメント レポートを生成後に表示するには、概要ページから [レ ポート センター]を開いて、必要なレポートを選択します。

構文

Run-Assessment [-Name] <文字列>

パラメータ

Name

シナリオ名。

例: アセスメント モードでのシナリオの実行

run-assessment "File Server 1"

結果:

シナリオ File Server 1 が正常に実行されました

Set-Bookmark - リワインド ブックマークの設定

ブックマークは、リワインドバックする時点をマークするために手動で 設定するチェックポイントです。Set-Bookmark コマンドを使用して、特 定のシナリオにブックマークを設定できます。ブックマークは、過去の イベントに対してではなく、リアルタイムに設定されます。データの不 安定要因になる可能性があるアクティビティが発生する直前にブック マークを設定することをお勧めします。

注:

- このオプションは、[レプリカ プロパティ]一覧で[リカバリ] [デー タのリワインド]オプションを [オン] に設定した場合のみ使用でき ます。
- 同期処理中はブックマークを設定できません。

構文

Set-Bookmark [-Name] <文字列> [[-Message] <文字列>]

パラメータ

Name

シナリオ名。

Message (オプション)

ブックマークの名前。デフォルト名には、ブックマーク設定の日 付と時刻が含まれます。

注: ブックマークには、後で認識しやすいようにわかりやすい名前 をつけることをお勧めします。

例: リワインド ブックマークの設定

set-bookmark "File Server 1" Backup1

結果:

シナリオ File Server 1: リワインド ブックマークが正常に設定されました

Stop-Scenario - シナリオの停止

Stop-Scenario コマンドを使用して、1つ以上のシナリオを停止できます。

注:操作が正常に完了したかどうかをチェックするには、<u>Get-Scenario</u>(P. 84) コマンドおよび Get-Events (P. 80) コマンドを使用します。

構文

Stop-Scenario [-Name] <文字列>

パラメータ

Name

停止するシナリオの名前。Get-Scenario (P. 84) コマンドを使用して、 複数のシナリオ名を入力できます。

例:シナリオの停止

stop-scenario "File Server 1"

結果:

シナリオ File Server 1 が停止しました

Suspend-IsAliveCheck - 実行中のシナリオの IsAlive チェックの一時停止

Suspend-IsAliveCheck コマンドにより、指定された実行中のHAシナリオの IsAlive チェックを手動で一時停止できます。

構文

Suspend-IsAliveCheck [-ScenarioName] <文字列>

パラメータ

ScenarioName

シナリオ名。

例: SQLscenarioの IsAlive チェックを一時停止します。

Suspend-IsAliveCheck SQLscenario

結果:

SQLscenario の定期的な IsAlive チェックを一時停止します。

Suspend-Scenario - レプリカの更新の一時停止

Suspend-Scenario コマンドを使用して、一時停止したレプリカへの変更の 配信を一時的に停止します。一時停止中、レプリケーションが再開され るまでの間に発生した変更はスプールに蓄積されるので、再同期は必要あ りません。

重要:一時停止中は、Exchange Server、SQL Server、Oracle などのアプリケー ションの開始も含め、いかなる形であれデータを変更する作業をレプリカ 上で行わないでください。レプリカ上でデータを変更するプログラムを 開始する必要がある場合、<u>アシュアードリカバリオプション</u>(P.48)を使 用することができます。

注:

- 同期中にレプリケーションを一時停止することはできません。変更は マスタまたは上位のレプリカのスプールディレクトリに蓄積される ため、レプリケーションは一時的にのみ停止できます。レプリカが一 時停止されている間に発生する変更を保持するスプールに十分な容量 があることを確認してください。
- 一時停止を解除するには、<u>Resume-Scenario</u>(P.40) コマンドを使用します。

構文

Suspend-Scenario [-Name] <文字列> [-Host] <文字列>

パラメータ

Name

シナリオ名。

Host

一時停止するレプリカホスト。

例: レプリカ上の更新の一時停止

suspend-scenario "File Server 1" 192.168.1.153

結果:

シナリオ File Server 1 は以下で一時停止されました: 192.168.1.153

Switchover-Scenario - スイッチオーバーの実行

Switchover-Scenario コマンドを使用して、所定のHAシナリオのスイッチ オーバープロセスを開始できます。マスタとレプリカ間でロールをス イッチバックするには、Switchover-Scenario コマンドをもう一度実行しま す。

構文

Switchover-Scenario [-Name] <文字列> -WaitJournal [<ブール値>] -run_reverse_scenario <文字列>

パラメータ

Name

シナリオ名。

WaitJournal

ジャーナルの待機。

0:ジャーナルを待機しない。0を選択する場合、リバースシナリオを実行できません。1:ジャーナルを待機する。

Run_reverse_scenario

リバースシナリオを自動的に実行するかどうかを指定します。

値が1またはTrueの場合、リバースシナリオを自動的に実行します。

値が 0 または False の場合、リバース シナリオを自動的に実行しません。

例:スイッチオーバーの実行

Switchover-Scenario "SQL Server 1" 1

結果

シナリオ SQL Server 1 は <Hostname> にスイッチオーバーします。

完了しました。

Sync-Scenario - 同期の開始

Sync-Scenario コマンドを使用して、所定のシナリオのマスタおよびレプリ カを同期することができます。 同期プロセスは、レプリケーションが実 行中かどうかにかかわらず、いつでも手動でアクティブにできます。

構文

Sync-Scenario [-Name] <文字列> [-Mode] <文字列> [-Ignore] <ブール値>

パラメータ

Name

シナリオ名。Get-Scenario (P. 84) コマンドを使用して、複数のシナリオ名を入力できます。

Mode

同期モード。以下のいずれかを入力します。 B=バイナリ F=ファイル

Ignore

データの比較時に名前とサイズが同じファイルを無視します。以下のいずれかを入力します。

1=はい

0=いいえ

例: 同期の開始

sync-scenario "File Server 1" F 1

結果:

以下のシナリオの同期を実行中です: FS 1...

完了しました。

Test-Integrity - アシュアードリカバリの整合性テストの実行

Test-Integrity コマンドを使用して、アシュアードリカバリのレプリカホ ストで自動整合性テストを起動できます。

注:

- Test Integrity コマンドを有効化するには、[アシュアードリカバリを 使用した整合性テスト]オプションを [オン] にしてシナリオを使用 する必要があります。
- アシュアードリカバリオプションは、レプリケーション(Replication) とハイアベイラビリティ(HA)の両方のソリューションをサポートし ます。しかし、最も適しているのはHAです。HAの場合は、データの みならず、テストが実行される実際のデータベースサーバがレプリカ サーバに導入されているためです。ARテストをレプリケーションシ ナリオの一部として使用する場合は、ルートディレクトリパスがマス タとレプリカで同じであることを確認する必要があります。さらに、 レプリカにデータベースアプリケーションがインストールされてい ること、また、ファイルサーバをテストする場合にはレプリカでファ イルが共有されていることが必要で、それらはマスタおよびレプリカ で同一の設定となっていなければなりません。そうでなければ、ARテ ストの結果は意味がないものになってしまいます。
- テストを開始する前に、シナリオを実行する必要があります。

構文

Test-Integrity [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-Mode] <文字列> -WaitJournal [<ブー ル値>]

パラメータ

Name

シナリオ名。

Host

テストするレプリカホストの IP アドレスまたはホスト名。

Mode

Test-Integrity を手動または自動モードで実行するかどうかを指定 します。手動モードを選択する場合は、「m」、「M」、「manual」、 または「Manual」と入力します。デフォルトは自動モードです。

WaitJournal

P2Vシナリオ用のジャーナルがすべて適用されると、テストを開始します。

0: ジャーナルを待機しない

1: ジャーナルを待機する

例: アシュアードリカバリの整合性テストの実行

Test-Integrity "Exchange Server 1" 192.168.1.153

結果

アシュアード リカバリを使用した整合性テストの開始: 192.168.1.153

完了しました。

アシュアード リカバリを使用した整合性テストの完了: 192.168.1.153

Unmount-Snapshot - スナップショットのマウント解除

Unmount-Snapshot コマンドを使用して、スナップショット自体を削除す ることなく、公開されたスナップショットをリリースすることができます。 スナップショットは引き続き公開されていますが、マウント ポイントは 使用しません。

構文

Unmount-Snapshot [-Name] <文字列> [[-Index] [<Int32>]] [[-Port] [<文字列>]]

パラメータ

Name

スナップショットを公開するホストの名前です。

Index

<u>Get-Snapshot コマンド</u>(P. 85)によって返されるスナップショット のインデックス番号。

Port (オプション)

特定のホストへの接続に使用されるポート。 デフォルト ポートは 25000 です。

例:スナップショットのマウント解除

Unmount-Snapshot {97127d0b-f1c9-4db5-943d-96c39b712fe6} 1

結果

スナップショット {97127d0b-f1c9-4db5-943d-96c39b712fe6} がマウント解除されます

編集コマンド

このセクションでは、シナリオとシナリオ グループを編集できるように する Arcserve RHA PowerShell コマンドについて説明します。

Add-Appliance - フル システム シナリオ用のアプライアンスの指定

Add-Appliance コマンドを使用して、フル システム シナリオ用のアプライ アンスを追加できます。

構文

Add-Appliance [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-Parent] <文字列> [-Type] <文字列> [[-Platform] <文字列>] [[-Credentials] <PSCredentials>] [[-ResourcePool] <文字列>] [[-Storage] <文字列>] [[-Port] <文字列>] [[-SSL] <ブール値>] [[-Dynamic] <ブール値>]

パラメータ

Name

新規シナリオの名前。

```
Host
```

レプリカホストの名前。

Parent

親ホスト。1:m:nをサポートします。

種類

プラットフォーム タイプ。

- Eまたはe-ESX
- Hまたはh-Hyper-V
- Xまたはx-Xen
- Vまたはv-VCenter
- Others 警告メッセージ

Platform

仮想プラットフォームの IP。 Hyper-V の場合は適用できません。

Credentials (オプション)

仮想プラットフォームの認証情報。

ResourcePool

リソースプール名。このフィールドを選択しない場合は、デフォ ルトが選択されます。

Storage

ストレージ名。このフィールドを設定しない場合は、デフォルト が選択されます。 ポート

仮想プラットフォームのポート番号。このフィールドを設定しない場合は、デフォルトが選択されます。

SSL

SSL 接続のスイッチ。デフォルト値は true です。

Dynamic

「with provision」プロパティのスイッチ。デフォルト値は true で す。

例: フル システム シナリオ用のアプライアンスの追加

Add-Appliance -Name FULL -Parent 9.181.130.110 -Host 9.181.130.64 -Type H 結果

レプリカ 9.181.130.64 が正常に追加されました

Add-Dir - マスタおよびレプリカのホストへのルート ディレクトリの追加

Add-dir コマンドを使用して、マスタおよびレプリカのホストにルート ディレクトリを追加できます。マスタとレプリカに同じルートディレク トリパスを定義するか、異なる2つのパスを入力することができます。レ プリカに別のパスを入力しない場合、デフォルトではマスタのパスと同じ になります。

構文

Add-Dir [-Name] <文字列> [-MasterPath] <文字列> [[-ReplicaPath] [<文字列>]]

パラメータ

Name

シナリオ名。

MasterPath

マスタのルートディレクトリの完全パス。

フル システム シナリオでは、ドライブ文字とマウント ポイントの 両方を入力します。 ドライブ文字を入力する場合、":"、"/"、およ び "¥" は無視できます。

たとえば、"e"、"e:"、"e:¥"、"e:/"、"e:¥¥¥¥¥"、"e:////" は同一です。

注:以下の点に注意してください。

- マウントポイントを入力する場合、区切り記号として "¥" また は"/"を使用します。
- シナリオにルートディレクトリがない場合、ブートボリュームおよびシステムボリュームなどのデフォルトボリュームも追加されます。
- all を入力すると、すべてのボリュームが追加されます。

ReplicaPath (オプション)

レプリカ上のルートディレクトリの完全パス。値を入力しない場 合、マスタとレプリカに同じパスが使用されます。

注: フルシステムシナリオでは、このパラメータは無視されます。

例:マスタとレプリカへの同じルート ディレクトリの追加

add-dir "File Server 1" C:/Tools

結果

ルート ディレクトリ: C:/Tools が正常に追加されました

Add-Group - シナリオ グループの作成

Add-Group コマンドを使用して、新規シナリオ グループを作成できます。

注: シナリオが割り当てられていない場合、空のシナリオ グループは概要 ページには表示されません。

構文

Add-Group [-Name] <文字列>

パラメータ

Name

新規シナリオグループの名前。

注: 複数のシナリオ グループに同じ名前を使用できないため、一 意の名前を入力します。新規グループに既存の名前を使用すると、 システムによってその名前が自動的に変更されます。

例:新規シナリオグループの作成

add-group "File Server Scenarios"

結果

グループ「File Server Scenarios」が正常に追加されました

Add-Master - シナリオへのマスタホストの追加

Add-Master コマンドを使用して、所定のシナリオにマスタホストを追加 できます。マスタホストを定義する際に、そのホスト名を入力する必要 があります。さらに、マスタ IP アドレスを入力できますが、このパラメー タは必須ではありません。

注:

- IP アドレスをホスト名として入力できます。
- このコマンドは、既存のマスタを変更する場合も使用できます。

構文

Add-Master [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [[-IP] [<文字列>]]

パラメータ

Name

シナリオ名。

Host

新規マスタのホスト名。

IP (オプション)

新規マスタのIPアドレス。IPアドレスが定義されていない場合、 システムはデフォルトでは指定されたホスト名を使用してIPアド レスを検索し、最初に検出されたIPアドレスを使用します。この ため、ホストに複数のIPアドレスがある場合、ここで使用するIPア ドレスを入力することをお勧めします。

例: シナリオへのマスタホストの追加

add-master "File Server 1" 130.119.185.152

結果

マスタ「130.119.185.152」が正常に追加されました

Add-Replica - シナリオへのレプリカホストの追加

Add-Replica コマンドを使用して、所定のシナリオにレプリカホストを追加できます。 レプリカホストを定義する際に、そのホスト名を入力する必要があります。また、オプションで IP アドレスも入力できます。次に、親ホスト名を入力する必要があります。これは、マスタまたは別のレプリカのいずれかです。

注: IP アドレスをホスト名として入力できます。

ACLのセキュリティの委任を使用しているときは、UserName、Password、 DomainNameの3つの追加のパラメータの値を入力する必要があります。

構文

Add-Replica [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [[-IP] [<文字列>]] [-Parent] <文字列> [[-UserName] <文字列>] [[-Password] <文字列>] [[-DomainName] <文字列>]

パラメータ

Name

シナリオ名。

Host

新規レプリカのホスト名。

IP (オプション)

新規レプリカのIPアドレス。IPアドレスが定義されていない場合、 システムはデフォルトでは指定されたホスト名を使用してIPアド レスを検索し、最初に検出されたIPアドレスを使用します。この ため、ホストに複数のIPアドレスがある場合、ここで使用するIPア ドレスを入力することをお勧めします。

Parent

新規レプリカ ホストの親ホスト。 親はマスタまたは上位のレプリ カのいずれかになり、そのホスト名または IP アドレスのいずれか を使用できます。

UserName、Password、DomainName(ACLの場合のみ)

新規レプリカ ホストを追加する権限を持つユーザのユーザ名、パ スワード、およびドメイン。

例: シナリオへのレプリカ ホストの追加

add-replica "File Server 1" 130.119.185.153 -parent 130.119.185.152

結果

レプリカ「130.119.185.153」が正常に追加されました

Add-Replicas - シナリオへの複数のレプリカホストの追加

Add-Replicas コマンドを使用して、所定のシナリオに複数のレプリカホストを一度に追加できます。 複数のレプリカホストを追加するには、それらのホストのホスト名と IP アドレスを含むテキスト ファイルを作成する 必要があります。 このコマンドを使用する際には、最初にシナリオ名、および追加するすべてのレプリカホストの親ホストを定義する必要があります。 次に、新規ホストの詳細を含むファイルの名前とパスを指定します。

構文

Add-Replicas [-ScenarioName] <文字列> [-ParentHost] <文字列> [-FileName] <文字列 >

パラメータ

ScenarioName

シナリオ名。

ParentHost

新規レプリカ ホストの親ホスト。 親はマスタまたは上位のレプリ カのいずれかになり、そのホスト名または IP アドレスのいずれか を使用できます。

FileName

ホスト名とその IP アドレスを含むテキスト ファイル。このテキス トは、次の形式にする必要があります。

#ホスト名 IP アドレス

QA95-W2K3-SQL1 *130.119.185.155

QA95-W2K3-EX2 *130.119.185.153

UserName、Password、DomainName(ACLの場合のみ)

新規レプリカ ホストを追加する権限を持つユーザのユーザ名、パ スワード、およびドメイン。

例: シナリオへの複数のレプリカホストの追加

add-replicas "Exchange Server" QA95-W2K3-EX1 D:\PNew_Replica_Hosts.txt

結果

130.119.185.151 QA95-W2K3-EX1

130.119.185.152 QA95-W2K3-EX2

2 つのレプリカが追加されました。

Add-Scenario - 新規シナリオの作成

Add-Scenario コマンドを使用して、新規シナリオを作成できます。新規シ ナリオを作成する際に、以下の項目を定義する必要があります。

- シナリオ名
- このシナリオが割り当てられるシナリオグループ(オプション)
- 保護するアプリケーションまたはデータベースサーバのタイプ
- データ保護ソリューションのタイプ
- アシュアードリカバリの整合性テストオプションを有効にするかどうか

新規シナリオは、ホストおよびルート ディレクトリなしで作成されます。 これらのパラメータは、後で <u>Add-Master</u> (P. 55)、<u>Add-Replica</u> (P. 56) および <u>Add-Dir</u> (P. 53) コマンドを使用して定義します。

構文

Add-Scenario [-Name] <文字列> [[-Group] [<文字列>]] [[-Application] [<文字列>]] [[-Type] [<文字列>]] [[-AR] [<ブール値>] [[-IntOpt] <文字列> [[-ServerURL] <文字列>]]

パラメータ

名前

新規シナリオの名前。

注:複数のシナリオに同じ名前を使用できないため、一意の名前を 入力します。新規シナリオに既存の名前を使用すると、システム によってその名前が自動的に変更されます。

Group (オプション)

新規シナリオを含むシナリオ グループ名。

注:

- グループ名を入力しないと、新規シナリオはデフォルトの Scenarios グループに割り当てられます。
- ここで、新規グループ名を入力して、新規シナリオグループを 作成できます。Add-Group (P.54) コマンドを使用しても、新規 シナリオグループを作成できます。

Application

データがレプリケートされるサーバのタイプは以下のとおりです。

EX - Exchange

- SQL SQL Server
- ORA Oracle
- IIS Internet Information Server
- FS-ファイルサーバ
- P2V フルシステム

種類

ソリューションのタイプ:

- DR レプリケーション/ディザスタ リカバリ
- HA-ハイアベイラビリティ

AR

レプリカ サーバ上のデータのリカバリ機能に関するアシュアード リカバリ テストを実行するかどうか:

- 0-いいえ
- 1-はい

IntOpt

他の Arcserve 製品との統合:

- BAB Arcserve Backup との統合
- D2D Arcserve D2D との統合
- HBBU Arcserve Central Host-Based VM Backup との統合

例:新規シナリオの作成

add-scenario "File Server 1" "File Server Scenarios" FS DR 0

結果

```
シナリオ File Server 1 が正常に追加されました
```

Create-D2DScenario - D2D シナリオの作成

この Create-D2DScenario コマンドを使用して、D2D シナリオを作成できます。

構文

create-D2DScenario [-ServerURL] <String> [-Credentials] <PSCredential>
[-ReplicaHostName] <String> [-ScenarioName] <String>

パラメータ

ServerURL

D2D サーバの URL を定義します。

認証情報

D2D サーバにログオンするための認証情報を定義します。

ReplicaHostName

レプリカの名前またはIPアドレスを定義します。

ScenarioName

シナリオ名を定義します。

例: D2D 統合シナリオの作成

Create-D2DScenario -ServerURL http://test01:8014 -Credentials testserv/testpass -ReplicaHostName test01 -ScenarioName testD2D

Create-HBBUScenario - Arcserve Central Applications 統合シナリオの作成

この **Create-HBBUScenario** コマンドによって、**Arcserve> Central** Applications サーバに接続して、ポリシーおよび関連するバックアップ先 をマスタとして取得し、すべてのバックアップ VM ファイルを自動検出す るシナリオを作成できます。

構文

create-HBBUScenario [-ServerURL] <String> [-Credentials] <PSCredential>
[-ScenarioName] <String> [-MasterHostName] <String> [-ReplicaHostName] <String>
[[-FilterFileName] <String>] [[-InstanceUUID] <String>]

パラメータ

ServerUrl

<arcserve> Central Host-Based VM Backup サーバの URL を定義します。

認証情報

<arcserve> Central Applications サーバにログオンするための認証情報を定義します。

ScenarioName

シナリオ名を定義します。

MasterHostName

マスタサーバの名前またはIPアドレスを定義します。

ReplicaHostName

レプリカの名前または IP アドレスを定義します。

FilterFileName

仮想マシンのフィルタ ファイル名を定義します

InstanceUUID

仮想マシンの UUID を定義します

例: Central Applications 統合シナリオの作成

Create-HBBUScenario -ServerURL http://test01:8015 -ScenarioName testHBBU -MasterHostName test02 -ReplicaHostName test_replica

Get-D2DBackupDestination - D2D バックアップ先の取得

この Get-D2DBackupDestination コマンドによって、D2D のバックアップ先の詳細を取得します。

構文

get-D2DBackupDestination [-ServerUrl] <String> [-Credentials] <PSCredential>

パラメータ

ServerURL

D2D サーバの URL を定義します。

Credentials

D2D サーバにログオンするための認証情報を定義します。

例: D2D のバックアップ先の取得

Get-D2DBackupDestination -ServerURL http://test01:8014 Credentials admin/testpass

Get-HBBUVM - Arcserve Central Applications サーバからの VM の取得

この Get-HBBUVM コマンドによって、<Arcserve> Central Applications サー バから、バックアップポリシーに割り当てられている仮想マシンを取得 します。

構文

Get-HBBUVM [-ServerUrl] <String> [-Credentials] <PSCredential>

パラメータ

ServerUrl

<arcserve> Central Host-Based VM Backup サーバの URL を定義します。

認証情報

<arcserve> Central Applications サーバにログオンするための認証情報を定義します。

例: Central Applications サーバからの仮想マシンの取得

Get-HBBUVM http://test01:8015

Remove-Dir - マスタおよびレプリカからのルート ディレクトリの削除

Remove-Dir コマンドを使用して、マスタおよびレプリカホストからルートディレクトリを削除できます。

注: このコマンドを使用して、レプリカからのみルート ディレクトリを削除することはできません。マスタのルート ディレクトリを削除すると、対応するレプリカのルート ディレクトリも削除されます。

構文

Remove-Dir [-Name] <文字列> [-MasterPath] <文字列>

パラメータ

Name

シナリオ名。

MasterPath

マスタ上のルートディレクトリパス。

P2V シナリオでは、ドライブ文字とマウントポイントの両方を入力します。 ドライブ文字を入力する場合、":"、"/"、および"¥" は 無視できます。

たとえば、"e"、"e:"、"e:¥"、"e:/"、"e:¥¥¥¥¥"、"e:////" は同一です。

注:以下の点に注意してください。

- マウントポイントを入力する場合、区切り記号として "¥" または "/" を使用します。
- システムボリュームにドライブ文字やマウントポイントが存在せず、それらを追加または削除できない場合があります。このドライブ文字またはマウントポイントは自動的に追加されます。そのようなボリュームは削除しないでください。

例:マスタおよびレプリカからのルート ディレクトリの削除

remove-dir "File Server 1" C:/Tools

結果:

ルート ディレクトリ: C:/Tools が削除されました

Remove-Group - シナリオ グループの削除

Remove-Group コマンドを使用して、所定のシナリオ グループを削除できます。

注: 空のシナリオ グループのみ削除できます。シナリオを含むグループを 削除する場合、最初にシナリオを削除する必要があります。

構文

Remove-Group [-Name] <文字列>

パラメータ

Name

削除するシナリオ グループの名前。

例: シナリオ グループの削除

remove-group "new group 1"

結果

グループ new group 1 が削除されました

Remove-Replica - シナリオからのレプリカホストの削除

Remove-Replica コマンドを使用して、所定のシナリオからレプリカホストを削除できます。

構文

Remove-Replica [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-Parent] <文字列>

パラメータ

Name

シナリオ名。

Host

削除するレプリカホストの名前。

Parent

レプリケーション ツリーから削除するレプリカホストの親。マス タまたは上位のレプリカのいずれかになります。

例: シナリオからのレプリカホストの削除

remove-replica "FS 1" 130.119.185.153 -parent 130.119.185.152

結果

レプリカ 130.119.185.153 が削除されました

Remove-Scenario - シナリオの削除

Remove-Scenario コマンドを使用して、所定のシナリオを削除できます。削除するシナリオがフルシステムシナリオの場合、このコマンドは関連する VM リソースも削除します。

注:実行中のシナリオは削除できません。

構文

Remove-Scenario [-Name] <文字列> [[-DeleteVM] [<ブール値>]]

パラメータ

Name

削除するシナリオの名前。

Delete_VM [<ブール値>]

P2V シナリオの VM リソースをすべて削除します。

1-削除する (デフォルト)

0-削除しない

例:シナリオの削除

remove-scenario "File Server 2"

結果

シナリオ File Server 2 が削除されました

Rename-Group - シナリオ グループの名前の変更

Rename-Group コマンドを使用して、所定のシナリオグループの名前を変更できます。

構文

Rename-Group [-Name] <文字列> [-NewName] <文字列>

パラメータ

Name

シナリオグループの現在の名前。

NewName

シナリオグループの新しい名前。

注: 複数のシナリオ グループに同じ名前を使用できないため、一 意の名前を入力します。 シナリオ グループに既存の名前を使用す ると、システムがその名前を自動的に変更します。

例: シナリオ グループの名前の変更

rename-group Server "Exchange Server Scenarios"

結果

グループ サーバの名前が変更されました

Rename-Scenario - シナリオ名の変更

Rename-Scenario コマンドを使用して、所定のシナリオの名前を変更できます。

注: 実行中のシナリオの名前は変更できません。名前を変更するには、ま ずシナリオを停止します。

構文

Rename-Scenario [-Name] <文字列> [-NewName] <文字列>

パラメータ

Name

シナリオの現在の名前。

New Name

シナリオの新しい名前。

例:

rename-scenario "File Server 1" "File Server"

結果

シナリオ File Server 1 の名前が変更されました

実行中にシナリオを変更するコマンド

シナリオの実行中に、一部のシナリオ プロパティを変更できるようにな りました。 このセクションでは、実行中のシナリオを編集するためのコ マンドの構文と例を示します。

- Apply-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties
- Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties
- Discard-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties
- Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties
- Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties
- Get-RuntimeChangeableScenarioProperties
- Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties
- Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties
- Set-RuntimeChangeableScenarioProperty
- Test-RuntimeChangeableScenarioProperty

Apply-AllPendingRuntmeChangeableScenarioProperties

Apply-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、実行中、 変更されたすべてのシナリオにすべての変更を適用できます。

構文

Apply-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

パラメータ

None

例

いくつかのシナリオのプロパティを変更したと仮定します。それらの 変更はすべて保留中です。それらを即座に適用する場合に、このコマ ンドを使用します。

Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties

Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、指定した実行中のシナリオにすべての変更を適用できます。

構文

Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties [Name]

```
パラメータ
```

Name - 変更する実行中のシナリオの名前。

例

以下のコマンドは、FileServer という名のシナリオに変更を適用します。

Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties FileServer

結果

結果として、プロパティとその値のリストが出力されます。

error_source : engine_verification_error

error_level: Error

host_index: 2

root_dir_index: 0

property_xpath: Scenario.ReplicationTree.ReplNode.ReplNode.SpecificReplicaProps. ReplicaScheduledTask.Suspend.SuspendScript.Path

Discard-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

Discard-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、すべてのシナリオ用に設定したすべての変更をキャンセルできます。

構文

Discard-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

パラメータ

None
Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties

Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、指定した実行 中のシナリオに対する任意の変更をキャンセルできます。

構文

Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties [Name]

パラメータ

Name - 変更を破棄する実行中のシナリオ名です。

例

FileServer という名の実行中のシナリオに多数の変更を加えた結果、問題 が検出された場合は、以下のコマンドを使用してシナリオのすべての値を 元に戻します。

Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties FileServer

結果

FileServer という名のシナリオに加えたすべての変更が、元の値にリ セットされます。

特定のプロパティのみ元の値に設定する場合は、

Set-RuntimeChangeableScenarioProperties して、実行中シナリオの指定した プロパティのみ変更します。 変更を破棄した場合

Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties リストのすべてのレ コードは削除されることに注意してください。

Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties を実行すると、指定した シナリオが実行時に変更されなかったことを警告するメッセージが表示 されます。

Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドは、実行中に変更されたシナリオをすべてリスト表示します。

構文

Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

None

例

以下のコマンドは、実行中に変更されたすべてのシナリオをリスト表示します。

 ${\tt Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties}$

結果

結果としてシナリオ名のリストが出力されます。

Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties

Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、シナリオの実行 中に変更可能なすべてのプロパティをリストできます。

構文

get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties

パラメータ

None

例:

以下のコードは、編集可能なプロパティをすべてリスト表示し、出力 をテキストファイルにリダイレクトするコマンドを発行します。

Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties > d:¥1.txt

結果

編集可能なプロパティが、「シナリオ/マスタ/レプリカ/プロパティ 名」という形式で表示されます。 Get-RuntimeChangeableScenarioProperties

Get-RuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、指定したシナリオの実行中に編集できるプロパティをすべて検出できます。 このコマンドでは、そのシナリオで変更できるプロパティのリストが返されます。 I/O リダイレクション コマンドと組み合わせると、出力をテキストファイル用にフォーマットします。

構文

Get-RuntimeChangeableScenarioProperties [Name]

パラメータ

Name - 実行中のシナリオ名

例:

以下のコマンドでは、「FileServerScenario1」という名のシナリオで編 集可能なすべてのプロパティが表示されます。

Get-RuntimeChangeableScenarioProperties FileServerScenario1

結果

Property: False

Host: 10.0.0.0

Value: False

Index: 111

Category: Replica

Name: SpecificReplicaProps.Suspend.SuspendScript

Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties

Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、指定した実行中シナリオに対するすべての変更をリスト表示できます。

構文

Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties [Name]

パラメータ

Name - 実行中のシナリオ名

例:

以下の例では、FileServer という名のシナリオで変更されたすべてのプロ パティがリストされます。

 ${\tt Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties}\ {\tt FileServer}$

結果

プロパティ、プロパティの元の値、プロパティの新しい値がリスト表示されます。

Set-RuntimeChangeableScenarioProperty

Set-RuntimeChangeableScenarioProperty コマンドでは、名前を指定したシナリオの実行中に、指定したプロパティの値を更新できます。

構文

Set-RuntimeChangeableScenarioProperty [Name] [Index] [Value] [Host]

パラメータ

Name - プロパティを変更する実行中のシナリオ名。

Index - 変更するプロパティのインデックスまたは名前。正しい名前を 取得するには、Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties または Get-RuntimeChangeableScenarioProperties コマンドを使用します。イン デックス値は内的に生成されます。タイプが同じ2つのシナリオでも、 同じプロパティのインデックスが異なる場合があるからです。正確な インデックスまたは名前を取得するようにしてください。

Value - 指定したプロパティの新しい設定。

ホスト-(オプション)マスタまたはレプリカのプロパティを変更す る場合のみ、ホストを指定する必要があります。一般的なプロパティ または HA プロパティについては、この値はオプションです。

例:

以下のコマンドは、一時停止スクリプトプロパティの引数を、名前に 基づいて更新します。

Set-RuntimeChangeableScenarioProperty FileServer SpecificReplicaProps.Suspend.SuspendScript 456 -Host 10.0.0.1

結果

プロパティ、プロパティの元の値、プロパティの新しい値を表形式で 表示します。

Test-RuntimeChangeableScenarioProperty

Test-RuntimeChangeableScenarioProperty コマンドでは、指定したプロパ ティがシナリオ実行中編集可能かどうかを確認できます。

構文

Test-RuntimeChangeableScenarioProperty [Name] [Index] [Host]

パラメータ

Name - 実行中のシナリオ名

Index - テストするプロパティのインデックスまたは名前

Host - オプション

例

以下のコマンドでは、FileServer という名の実行中のシナリオについて、 インデックスが 113 のプロパティをテストします。

Test-RuntimeChangeableScenarioProperty FileServer 113 -host 10.0.0.3

結果

指定したインデックスまたはプロパティ名について TRUE または FALS の値。

モニタリング コマンド

このセクションでは、DR および HA プロセスをモニタできるようにする Arcserve RHA PowerShell コマンドについて説明します。

Get-Dirs - シナリオのルート ディレクトリの一覧表示

Get-Dirs コマンドを使用して、すべてのルートディレクトリの一覧を表示 できます。

構文

Get-Dirs [-Name] <文字列>

パラメータ

Name

シナリオ名。

例: 所定のシナリオのルート ディレクトリの一覧表示

get-dirs "File Server 1"

結果

ID:2721474912Scenario:File Server 1Master:192.168.1.152Path:C:/ToolsDB:False

Get-Events - シナリオのイベントのリスト表示

Get-Events コマンドで所定のシナリオのレプリケーションイベントのリストが表示されます。このイベントリストには、情報、警告およびイベントが含まれる場合があります。表示される情報は、イベントID、イベントの日付と時刻、シナリオ名、イベントの重大度およびイベントメッセージで構成されます。

構文

Get-Events [-Name] <文字列>

パラメータ

Name

表示するイベントのシナリオ名。

例:自動サイズ設定形式の表で所定のシナリオの一覧を表示

get-events "File Server 1" | FT -auto

ID	Time			Scena	ario		Severity	Message
SM00165	10/28/2008	6:02:52	PM	File	Server	1	Significant	Connected to
SR00014	10/30/2008	7:17:31	PM	File	Server	1	Significant	Starting
SR00139	10/30/2008	7:17:35	PM	File	Server	1	Significant	Starting File
IR00119	10/30/2008	7:18:16	PM	File	Server	1	Info	Root directory
SR00120	10/30/2008	7:18:16	PM	File	Server	1	Significant	Synchronization
IM00405	10/30/2008	7:15:06	PM	File	Server	1	Info	Posting
SR00202	10/30/2008	7:18:21	PM	File	Server	1	Significant	All modifications
SR00096	11/3/2008	5:47:40 F	PM	File	Server	1	Significant	Stopping scenario

Get-Group - 所定の名前を持つグループの一覧表示

Get-Group コマンドを使用して、所定の名前を持つすべてのシナリオ グループの一覧を表示できます。 このリストを表示するには、検索する名前を入力する必要があります。

さらに、このコマンドを使用して、既存のすべてのシナリオ グループの 一覧を表示できます。すべてのシナリオ グループの一覧を表示するには、 シナリオ名なしでコマンドを入力します。

構文

Get-group [[-GroupName] [<文字列>]]

パラメータ

Name

シナリオグループの名前。

注: ワイルドカード「*」または「?」をシナリオ グループ名の一部 として使用できます。

例: 所定の名前を持つすべてのシナリオ グループの一覧表示

get-group *Server*

結果

File Server Scenarios 2

File Server Scenarios 1

Exchange Server Scenarios

File Server Scenarios

Get-Hosts - シナリオのすべてのホストの一覧表示

Get-Hosts コマンドを使用して、所定のシナリオのすべてのホストの一覧 を表示できます。

構文

Get-Hosts [-Name] <文字列>

パラメータ

Name

シナリオ名。

例: 自動サイズ設定形式の表で所定のシナリオのホストの一覧を表示

Get-Hosts "File Server 1" |FT -auto

Scenario	Name	Role	Parent	State	IP	Port
File Server 1	192.168.1.152	Master		Running	192.168.1.152	25000
File Server 1	192.168.1.153	Replica	1192.168.1.152	2 Running	192.168.1.153	25000

Get-NetworkAdapters - 指定されたホストのネットワークアダプタの取得

Get-NetworkAdapters コマンドを使用して、指定されたホストのすべての ネットワーク アダプタをリスト表示できます。

構文

Get-NetworkAdapters [-Name] <文字列> [-Host] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

フルシステムシナリオ内のホスト名。

例:フル システム シナリオの指定されたホストのすべてのネットワーク アダプタ をリスト表示

Get-NetworkAdapters FULL 9.181.130.64

結果:すべてのネットワークアダプタが表示されます。

Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection - Virtual Switch

Arcserve RHA internal for AR

Get-Scenario - 所定の名前を持つシナリオのリスト表示

Get-Scenario コマンドを使用して、所定の名前を持つすべてのシナリオの リストを表示できます。このリストを表示するには、検索する名前を入 力します。

さらに、このコマンドを使用して、既存のすべてのシナリオのリストを表示できます。 すべてのシナリオのリストを表示するには、シナリオ名な しでコマンドを入力します。

構文

Get-Scenario [[-Name] [<文字列>]]

パラメータ

Name

シナリオ名。

注: ワイルドカード「*」または「?」をシナリオ名の一部として使用できます。

例: 自動サイズ設定形式の表で指定の名前を持つすべてのシナリオの一覧を 表示します。

get-scenario File* |FT -auto

ID	Group	Name	Туре	Master	State	Sync	AR
1123633852	Scenarios	FileServer	FileServer		Unknown	File	False
1123633468	Scenarios	File Server 1	FileServer	192.168.1.153	Stopped	File	False

Get-Snapshot - レプリカ ホストの VSS スナップショットを表示

Get-Snapshot コマンドを使用して、所定のレプリカホストのすべての VSS スナップショットを表示できます。

構文

Get-Snapshot [-Name] <文字列> [[-Port] <文字列>]

パラメータ

Name

シナリオに表示されるホストの名前。

Port (オプション)

所定のホストへの接続ポート。デフォルトのポート番号は**25000** です。

例:自動サイズ設定形式の表で所定のレプリカホストのすべての VSS スナッ プショットを表示

Get-Snapshot 130.119.173.7 |FT -auto

Index	Snapshot	Created			Exposed	Mour	nted	Drive	Scenario
0	{4f2bb053-5f2d}	11/18/2008	4:03:09	PM	False	Not	Mounted	C:/	FileServer
1	{bcbdda2b-6165}	11/18/2008	4:06:00	PM	False	Not	Mounted	C:/	FileServer
2	{c1f206be-2ad0}	11/18/2008	4:07:17	PM	False	Not	Mounted	C:/	FileServer

Get-State - 特定のホストに定義されたすべてのシナリオの一覧を表示

Get-State コマンドを使用して、特定のホストに定義されたすべてのシナリオを詳細および状態と共に一覧表示します。

構文

Get-State [-Name] <文字列>

パラメータ

Name

ホストの名前。

例:

get-state 130.119.185.152

結果

ID	:	2505374864
グループ:	F	S シナリオ
名前	:	FS 1
タイプ	:	ファイル サーバ
マスタ	:	130.119.185.152
ステータス	:	実行中
同期	:	ファイル
AR	:	False

 ID
 : 2721467841

 グループ:
 File Server Scenarios

 名前
 : File Server 1

 タイプ
 : ファイル サーバ

 マスタ
 : 130.119.185.152

 ステータス:
 停止

 同期
 : ファイル

 AR
 : False

Get-Stats - シナリオの統計情報を表示

Get-Stats コマンドを使用して、シナリオの実行中にホスト別の統計情報を 表示できます。

構文

Get-Stats [-Name] <文字列>

パラメータ

Name

シナリオ名。

例: 所定のシナリオの実行中にレプリケーション統計情報を表示

get-stats "File Server 1"

シナリオ	: File Server 1
名前	: 192.168.1.152
役割	: マスタ
スプール サイズ	: 0
同期ファイル	: 345
同期 (MB)	: 86
レプリケート (MB)	: 0

シナリオ	: File Server 1
名前	: 192.168.1.153
役割	: レプリカ
スプール サイズ	: 0
同期ファイル	: 345
同期 (MB)	: 86
レプリケート (MB)	: 0

ユーザ管理コマンド

このセクションでは、ユーザ グループおよび ACL ベースのコントロール サービスのユーザをモニタおよび管理できるようにする Arcserve RHA PowerShell コマンドについて説明します。

注: ACL コマンドを使用するには、特別なライセンスが必要です。

Clean-VMResource - 仮想プラットフォーム上の VM リソースの消去

Clean-VMResource コマンドを使用して、仮想プラットフォーム上の仮想マ シンリソースを消去できます。 レプリカホストを入力すると、レプリカ のVMリソースが消去されます。Host パラメータを入力しない場合、仮想 プラットフォームのすべてのVMリソースが消去されます。

構文

Clean-VMResource [-Name] <文字列> [-Host] <文字列>

パラメータ

Name

シナリオ名。

Host

シナリオ内のレプリカホスト。

例: すべてのリソースを消去

Clean-VMResource FULL 9.181.130.64

結果

VM リソースは正常に削除されました。

Edit-NetworkMapping - マスタおよびレプリカへのネットワークアダプタのマップ

Edit-NetworkMapping コマンドを使用して、フルシステムシナリオのマス タおよびレプリカの間でネットワークアダプタをマップできます。

構文

Edit-NetworkMapping [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-SourceAdapter] <文字列> [-TargetAdapter] <文字列> [[IP] <文字列[]>] [[DNS] <文字列[]>] [[gateway] <文字列[]>] [[PrimaryWins] <文字列>] [[SecondaryWins] <文字列>] [[-Type] <文字列>]

パラメータ

名前

シナリオ名。HA および P2V シナリオのみがサポートされています。

Host

ホスト名または IP アドレス。

SourceAdapter

ソースアダプタの名前。

TargetAdapter

ターゲットアダプタの名前。空の値を指定するには Null を使用します。

IP

IP アドレスの配列。区切り記号は「:」を使用します。たとえば、 "192.168.1.1:255.255.252.0"。255.255.252.0 はサブネットマスクで す。

DNS

DNSアドレスの配列。

Gateway

ゲートウェイアドレスの配列。

PrimaryWins

```
プライマリ WINS (Windows インターネット ネーム サービス)ア
ドレス。
```

SecondaryWins

セカンダリ WINS (Windows インターネット ネーム サービス)ア ドレス。

種類

AR またはSW ネットワーク。デフォルトはSW ネットワークです。 AR ネットワークを設定するには、「ar」を入力します。

例

Edit-NetworkMapping -Name FULL -Host 9.181.130.61 -SourceAdapter "Microsoft Network Adapter Multiplexor Driver" -TargetAdapter "Arcserve RHA internal for AR" -Type AR -IP 9.181.130.140:255.255.0.0

結果

ネットワーク マッピングが正常に編集されました。

Get-SuperUserGroup - スーパー ユーザ グループ名の表示

Get-SuperUserGroup コマンドを使用して、接続されているコントロール サービスのスーパーユーザグループの名前を表示することができます。

構文

Get-SuperUserGroup

注:このコマンドにはパラメータはありません。

例:スーパーユーザグループの名前の表示

Get-SuperUserGroup

結果

QA95-W2K3-SQL¥¥<スーパー グループ ユーザ名>

Set-SuperUserGroup - スーパー ユーザ グループの変更

Set-SuperUserGroup コマンドを使用して、スーパー ユーザ グループを変 更できます。

構文

Set-SuperUserGroup [-GroupName] <文字列>

パラメータ

GoupName

新規スーパー ユーザ グループの名前。

例: スーパー ユーザ グループの変更

Set-SuperUserGroup Administrators

結果

スーパー ユーザ グループが正常に設定されました

Get-Users - スーパー ユーザ グループのすべてのユーザの一覧表示

Get-Users コマンドを使用して、スーパーユーザグループに属しているす べてのユーザを一覧表示できます。

構文

get-users

注:このコマンドにはパラメータがありません。

例:スーパーユーザグループに属しているすべてのユーザの一覧表示

get-users

結果

QA95-W2K3¥Administrator

QA95-W2K3-SQL¥User2

QA95-W2K3-SQL¥User1

Get-ScenarioUsers - シナリオに対する権限を持つすべてのユーザの一覧表示

Get-ScenarioUsers コマンドを使用して、特定のシナリオに対する権限を持 つすべてのユーザを一覧表示できます。

構文

get-ScenarioUsers [-ScenarioName] <文字列>

パラメータ

ScenarioName

シナリオ名。

例: 所定のシナリオに対して権限を持つすべてのユーザの一覧表示

Get-ScenarioUsers "File Server"

結果

name

- - - -

QA95-W2K3-SQL¥User2

QA95-W2K3-SQL¥User1

Set-ScenarioUser - シナリオに対する権限の、ユーザへの割り当て

Set-ScenarioUser コマンドを使用して、特定のシナリオに対する権限を ユーザに割り当てることができます。

構文

Set-ScenarioUser [-Name] <文字列> [-User] <文字列> [-Right] <文字列>

パラメータ

Name

シナリオ名。

User

ユーザのフルネーム。

Right

シナリオに対してユーザが行使できる権限の種類。
以下のいずれかを入力します。

- A=管理者
- C=コントロール

V = 表示のみ

例:所定のシナリオに対するコントロール権限のユーザへの割り当て

Set-ScenarioUser "File Server" QA95-W2K3-SQL¥User2 C

結果

権限がユーザに正常に設定されました

Remove-ScenarioUser - シナリオに対するユーザの権限のキャンセル

Remove-ScenarioUser コマンドを使用して、特定のシナリオに対するユー ザの権限をキャンセルできます。

構文

Remove-ScenarioUser [-Name] <文字列> [-User] <文字列>

パラメータ

ScenarioName

シナリオ名。

UserName

ユーザの名前。

例: 所定のシナリオに対するユーザの権限のキャンセル

Remove-ScenarioUser "File Server" QA95-W2K3-SQL¥User2

結果

ユーザの権限が正常に削除されました。